

目的 ヒトの身体的な成熟については、多数の研究が行われているが、そのほとんどは暦年齢を尺度としたものが多い。しかし、人体の大きさ・かたちだけを考慮すると、必ずしも暦年齢が個体の体つきを決定する唯一の要因とは言えない。そこで、暦年齢に代わる生物学的尺度として各人の初潮時から計測時までの経過年数を考えた。経過年数の違いにより体つきの特徴に較差が生じるならば、それを身体発達完了の一指標と考えることができる。そしてこれは、婦人服と子ども服とのサイズ境界の問題を考える上でひとつの示唆となろう。

方法 昭和53年計測の13~18歳女子293名の身体計測値18項目に主成分分析を施し、 $\alpha_1$ ・ $\alpha_2$ 主成分を軸とした平面上に各人の主成分値をプロットする。各人の初潮からの経過年数を算出し、それを基準にして図上の個体群をグループ分けした。これらを楕円近似し、各グループの特徴を把握し、グループ間の相対的位置関係を考察した。

結果 未潮者と7つの既潮者（初潮から計測時までの経過年数が1年未満、1年以上2年未満、……、6年以上）のグループに分けて考察した。未潮者グループが少数であったことに問題はあるが、経過年数の相違により各グループの図上の位置に差が見られた。未潮者グループは $\alpha_1$ および $\alpha_2$ 主成分に対して負の方向寄りに位置しており、経過年数の増加に伴って充実した体つきの方向に移行する傾向がみられる。初潮より4~5年後にはこの移行は緩慢になり、その時期に体つきの形成が完成したといえよう。